



# 『この国どんな国？特別編』

## 現地視察レポート

第11号(2008年10月22日)



今回ご紹介する国は  
「モンゴル」

### はじめに

「この国どんな国？第7号」で取り上げた「未知なる資源大国 モンゴル」を訪問しましたので、その様子を写真とともにお届けします。日本人にはまだあまり馴染みのない国ですが、豊富な天然資源に恵まれ、年平均8%以上の高い経済成長を続けるモンゴルの雰囲気を感じていただければ幸いです。

### ウランバートル市内



朝の通勤の様子です。  
鉄道が走っていないため、多くの人が  
バスを利用していました。



ウランバートル市内は建設ラッシュの様相  
を呈していました。写真は市中心部に建設  
中の、オフィスや高級レストラン、高級  
フティック等が入居する予定の高層ビル。



朝の通勤時間帯は郊外から通勤する人  
の車で市内は大渋滞となります。ちなみに  
モンゴルでは日本車が人気のようにでした。



ウランバートル市内の様子です。  
ゲルの形をしたユニークな土産物屋  
がありました。



市中心部のスフバートル広場と、政府宮殿  
(国会議事堂)です。この広場は多くの市民  
が集う、憩いの場となっています。



郊外では、このようなゲルで生活している  
人々が多くいます。

出所：スパークス・アセット・マネジメント(株)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



## ウランバートル郊外と鉱山



一歩郊外に出ると、そこは360度見渡す限りの大草原が広がっており、様々な家畜の放牧が行われています。



ウランバートル郊外にあるチンギス・汗の巨大なモニュメント。ちなみに右下の小さな白い点が車です。



ちょっとわかりにくいかもしれませんが、モンゴル最大級の炭鉱、バガノール鉱山を遠くから見た様子です。



巨大なバガノール鉱山、なんとこの先10キロ以上にわたり採掘が可能とのこと。ものすごいスケールです。



バガノール鉱山を運営する、バガノール本社。時価総額ではモンゴル第2位の規模を誇ります。



鉱山には、海外からも投資家など多くの人が視察に訪れます。

### <バガノール社（バガノール鉱山）について>

- ・1978年に設立された、政府が株式の75%を保有する政府系の企業。
- ・石炭の年間生産量は約400万トンで、100年以上の採掘が可能。
- ・現在モンゴル国内の石炭需要の約50%を供給している。（ほとんどが火力発電所向け）
- ・時価総額はモンゴルテレコムに次いで第2位の約70億円。
- ・2007年の売上高は約30億円、純利益は約6億円。
- ・4-5年後には政府保有の株式を放出して完全民営化の予定。
- ・輸送のインフラを整え、輸送効率を上げて輸出を拡大する方針。

出所：バガノール社の情報を元に、スパークス・アセット・マネジメント(株)が作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

# 『この国どんな国？特別編』 現地視察レポート



今回ご紹介する国は  
「モンゴル」



## 生活・文化



チンギス・ハン時代の宮殿を再現した  
ホテルモンゴリア。モンゴル証券取引所  
の上場銘柄でもあります。



ホテルモンゴリアの内部はこんな感じ。  
ちなみに「第68代横綱 朝青龍」はここで  
結婚披露宴を行ったそうです。



本物そっくりのコンクリート製のゲルに  
宿泊することができますが、残念ながら  
営業は夏場のみだそうです。



モンゴルの草原に沈む夕日は大変美しく、  
訪れる人々を魅了し続けています。



モンゴルの民族衣装です。モンゴルには  
実に70種類以上もの民族衣装がある  
そうで、これもそのうちの一つです。



モンゴルの伝統音楽「オルティンドー」  
を演奏する人たち。日本人にとっては  
どこか懐かしい響きがあります。

### 訪問を終えて

今回初めてモンゴルを訪問しましたが、想像以上のスピードで経済成長している印象を受けました。ウランバートル市内では至るところでマンションや高層ビルの建設工事が行われており、また、外国企業による鉱山開発が活発に行われているためか、街中では外国人の姿も多く見られました。まだまだ国土の75%が未開発と言われるモンゴルだけに、外国資本の参入やインフラ開発の進展に伴って今後さらに急速な経済成長が期待でき、将来が非常に楽しみな国だと感じました。

出所：スパークス・アセット・マネジメント(株)

(これらは全て2008年9月末現在の情報です)

取材・編集：スパークス・アセット・マネジメント(株) 事業開発部



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。